

会 議 録

会議の名称	教育委員と社会教育委員との懇談会
開催日時	令和7年3月13日(木)午後1時00分～午後2時20分
開催場所	飯田市役所 A棟301、302 号会議室
出席委員氏名(敬称略)	【教育委員】北澤職務代理、林委員、麦島委員 【社会教育委員】今村幸子、今村光利、熊谷弘、後藤正幸、滝澤勇一、竹内稔、中村由美子、長谷部智子、平田睦美、三浦宏子
出席事務局職員	熊谷教育長、秦野教育次長、福澤学校教育課長、北澤学校教育専門幹、後藤生涯学習・スポーツ課長、松下学校教育課長補佐兼総務係長、本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長、片桐教育支援指導主事
会議の概要	以下のとおり

1 開 会

(秦野教育次長)

ただいまから教育委員と社会教育委員の懇談会を始めさせていただきます。

全体進行を務めさせていただきます教育次長の秦野でございます。よろしくお願いいたします。意見交換が始まりましたら皆様方から自己紹介として一言づついただきたいと思っておりますけれども、本日、1時間という限られた時間でございますので、できれば1分以内に自己紹介をお願いしたいなという風に思うのとですね、できるだけ多くの皆さんに発言の機会を設けたいと思いますので、おおむね1回の発言は3分程度でお願いができるとありがたいかなと思っております。それでは始めに熊谷教育長よりご挨拶をさせていただきます。

2 あいさつ

(熊谷教育長)

皆さんこんにちは。今日から卒業式も始まるということで、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。社会教育委員さんから、ぜひ教育委員さんと懇談をしたいという、そんなご要望をいただいて、かつてやったことはないのですが、初めて懇談をさせていただく時間をご用意いたしました。

1番悩んだところは、何について懇談するのかということですが、来年度から教育振興基本計画の後期の計画がスタートしますので、それについて来年度に繋がるようなご意見を賜ればありがたいと思っています。そういった意味で、キーワードとしております「ムトスの学びで未来をつくる」をテーマとして、時間を有意義なものにしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(座長)

皆さんこんにちは。この時期、卒業式というお話が出てくるといつも思い出す先人の教えがあります。「春が来たから梅の花が咲くのではない。梅の花に誘われて春がやってくるのだ」というものです。つまり、時期が来たから何かをやるのではないと。学校の卒業証書授与式も卒業生の皆さんの成長が…、そん

な時節になりました。

今日は本当に限られた時間ですけど、座談と言いましょか、懇談ですので、渾身(懇親)の力を発揮していただいて、意義あるものにしたいと思います。

3 意見交換

(秦野教育次長)

ありがとうございます。意見交換の前にご報告させていただきますが、本日、教育委員の野澤委員、社会教育委員の永井委員、森本委員がご欠席となっております。それでは、意見交換は熊谷教育長に進行をお願いいたします。

(熊谷教育長)

はい、進行ということですがよろしくお願いします。

そもそも「ムトスの学び」ということを考え始めたのは、150年経った今、教える側と学ぶ側という2者の立場、それだけでいいんだろうかというような教育改革のうねりが来ていると思います。主体的、対話的で深い学びという言葉になったりとか、個別最適な学びと協働的な学びのその一体化という文科省の学習指導要領等で表わしているような言葉もあります。

また、社会教育に関わって言えば飯田市はムトスの心、結いの心を大事にしてきております。公民館活動がこの地域の大事なキーワード、看板となっていると考える一方で、私も先日の地区の会議で、担い手がない、組合から抜ける、不公平感が出ているっていうような社会、大人の様子も最近話題になっていて、目指す方向と現実とのギャップがあるなども考えております。

そうしたことを少しでも解決できるようなものにならないかということで、「ムトスの学びで未来をつくる」というのは、学校教育でも社会教育でも共通のキーワードとして大事にしていく必要があるんじゃないかと考えたところなんです。そこで「ムトスの学び」が、未来をつくるキーワードとして成り立つのかどうか、あるいは、どうしていけばそういうことができるのかということも考えていきたいと思っております。

冒頭で大上段に構えましたけども、皆様方のご発言は、身近なところから日頃感じていること、考えていること、是非そこに寄せてご発言いただければありがたいなと思います。

そこで、最初、自己紹介を兼ねて、そもそもムトスの学びについて、よくわからないでもいいですし、感じることでもいいですし、思うことでも結構ですが、そんなことをちょっと一言ずつ自己紹介と合わせて一通りしていただいてから、懇談に入っていきたいと思っております。

(i 職務代理)

教育委員の教育長職務代理者の i と申します。社会教育員の皆さんの、ほとんどの方がどこかでお世話になった、存じ上げている方ばかりで、あまり飾ったことも言えないなと思っています。

座長さんから渾身の力を込めてというので、渾身の力を込めて申し上げますが、ムトスの学びは難しく考えるよりも、こどもたちも大人も1歩踏み出す、ほんのちいさなきっかけでいいから、その1歩を踏み出して、ものに向かうとか、ものを考えると、人と触れ合うとかというレベルで私は受け止めていて、その1歩踏み出すというところがとっても大事な部分なのかなと思います。

先日、総合教育会議もあって、市長さんともお話したのですが、私たちはこうやって日々出会いの中で生かされている訳で、その出会いを成立させるには、1歩気持ちを前へ踏み出さないと出会いにもならな

い、そう考えると、このムトスの部分がとても大事だと思います。

(ii 教育委員)

教育委員のiiと申します。ムトスの学びという言葉は初めて突き詰めて考えさせてもらったのが、令和6年第1回の総合教育会議の時でした。ムトスの学びとは何だろうということを市長さんと教育委員とで懇談をしたのですが、その時に自分の願い、願いとはなんだろうということをすごく考えさせられました。それを突き詰めると、自分がどうやったら幸せを感じられるのかとか、どんなことが好きだったかというようなことを考えていくことがムトスなのかなと私は考えまして、教育に限らず、大人になっても地域で生き、豊かな人生を送るためには、好きという部分を見つけていくことが大事なのかなと感じています。教育の中で、こどもたちがそういう自分の願い、問いに気づくために、自分が何をしたら楽しいか、好きかということに気づけるようなきっかけ、出会い、体験があるといいなというのが私のムトスの学びへの思いです。

(iii 教育委員)

iiiと申します。

ムトスの学びに関しては、大きく時代が変わっていく中で、いろんなことを我慢するのではなく、自分の可能性を信じて一人ひとりが個性を生かせるような社会になればいいと思っています。そのためには、まずは大人がワクワクドキドキしている姿を見せることによって、こどもも何かやってみたいのかなとかやりたいなという、気力や意欲が湧いてくる社会にしていきたいと思っています。

(G 社会教育委員)

Gと申します。普段は川路のこどもたちと活動しているんですが、コロナで活動中止になってしまったこともあります。今は通学合宿の実行委員の座長をしています。学校から家に帰るこどもさんを4～5日間、家に帰さないでが公民館で預かるという活動をしていたのですが、コロナ以降、活動停止しています。代わりに今夏休み、春休みの寺子屋をやらせていただいています。やっと年が明けてから、水曜日の学校終わった後の2時間半ですかね、ニコニコキッズが立ち上がりました。こどもたちの方から、遊びたい、公民館を開けてというので、4～5人ぐらいですがチラシを配って集めようかなと思ったんですけど、4月になって落ち着いてから始めようと思っています。今は口コミでこどもたちが集まってきてる、そんな状況です。

川路はご多分に漏れずこどもさん少なくなっています。こどもが5、6年生になると、PTAの役員を仕方なくやらなきゃならないという状況になってきています。先日も春休みの寺子屋を決める会議があったのですが、おじさんおばさん達は元気で、意見をいっぱい出します。PTAのお父さんお母さんは、渋い顔して実行委員会やってるんですよ。このお父さんお母さんたちを元気にするのが私たちの仕事かなと感じています。

(H 社会教育委員)

Hと申します。さかのぼって25年前には学校週5日制となり、そして高校再編の問題などがあり第1転換期でした。大転換期というのは必ず前へ進んでいる限りは訪れることであって、驚くことではないと思います。

私たちは人様の支えをいただき生きているわけですが、親子や家族を中心に意見を出し合って、お互いのいいところを応援してやると、あるいは応援してもらうといい結果が出てくるということを感じています。なので、ずっとムツの気持ちで携わらせていただけてきました。

これも皆さんのおかげでこういう道、生き方が出来たと思いますが、それぞれの持っている元気やエネルギーを分かち合いたいと思います。そして、教育というのは飯田市の繁栄のため、それが原点で大事だと思います。

(I 社会教育委員)

I といいます。おもしろ科学工房をやっているんですが、かざこしこどもの森公園でこどもたち向けの科学実験をやっております。今日、教育委員の方々には「このおいで館から NASA へ」という文書を配らせていただきました。私はムツ推進委員もやっているんですけども、ムツって何かなんというの、私の場合は後からついてきた感じがしております。

ムツということを考えずに活動してたんですけども、科学実験の中で、私が出前教室に行った時に、地域の方々のことまでやってしまうと、地域が育たないので、私は地域の人たちと一緒にこどもたちを育てたいなと思い、一緒に活動したいというのを思っていました。今では20何年かやっていますけども、地域の人たちが元気になったりしている姿を見ると、こういうのがムツではないか、地域を育てることなのかなと思ってやっています。

(A 社会教育委員)

A です。先日の会議で私が何も発言しなかったのは、自分の中で、これから私はどうしてこうかという思いがふつふつといっぱいあったからです。夜寝る時、頭の中にあれもこれもやらなくてはと思うんですが、体の方がなかなかついていきません。今1番考えてるのは、自分の住んでいる三穂地区で、私は何ができるかなんということ。今まで、まちづくり委員会のこども育成の委員長もやらさせていただきました。私のバックボーンには人形劇があるので、文化的なことに今までは目を向けてきましたが、先日のキャリア教育の会議の中で自分が住んでるところの自然について、改めて目を向けるきっかけとなりました。こどもたちにこの自然の中で育て、都会へ出ていっても、この良さを忘れないこどもたち、孫に育てたいなと思います。今1番考えているのは、三穂は 3 世代同居が多いんです。三穂が良くて、都会から来た人もいます。ですが、隣の人のことをよく知らない。だから私は自分の住んでいるお組合の中で、まず焼肉大会をやろうと思います。まず地区を知ること。だから私は人形劇は少し横に置いて、住んでいる地域が好きだということもや孫たちを育てたいなと思っています。

(B 社会教育委員)

B です。私は、2001年に飯田へ帰ってきました。25年がようやく経つのかなんという感じです。今年6月が来ると60歳になります。まだまだ若いかもしれない。昭和40年生まれですので、教育制度改革があつて、質と量とスピードを求められる丸暗記世代でございます。詰め込み教育の権化のような状態だったんですが、色々激動の時代です。翻弄された部分もあります。中学入ったらいきなり2年間のプレハブ校舎の生活を東中で送っておりました。小学校5年生になろうという時に校舎が燃えてしまった。風越高校へ行ったんですが、卒業する時は共通一時足切り、一年浪人して受けたのはセンター試験。制度改革があるたびに思うんですが、こどものためのという大人の都合があるんだなとひしひしと感じる今日この頃で

ございます。

自分が育った環境をこどもに与えたいなと思って、こどもを引き連れて飯田へ戻ってきたのが25年前です。現在の本業は長野県シニア大学を運営している長寿社会開発センターでシニア活動推進コーディネーターをやっています。これも50歳になって就きましたので今年で10年目となります。

ムトスの学びという言葉がようやく出て、非常にいいなと思っております。何しろ学びというのは常に気づき、内発的なものと、私はずっと思っています。目覚めるのと一緒に、その気づきを大事にする、周りの寛容な態度も必要だと思います。ムトスというのは自発的な行動なので、内発と自発を見守っていく姿が私たちには求められるのだと思います。大人の姿勢としては、昔は大人が一方向的にやっていたんですけど、よく教育の世界でいう「教えるは学ぶの半ばなり」という、そのことを本当に突き詰められてやらなければいけないんだなというのをひしひしと感じています。

(C 社会教育委員)

Cと申します。社会教育委員は昨年4月に任命をいただいて、まだまだひよこでございます。

自分はPTA活動において13年目に入っております。

そういう部分では、i職務代理にもお世話になりました。県の方で会長を数年して、関東ブロックの理事、日本PTA全国協議会の常務理事までやりました。日本PTA全国協議会の関東ブロック長野大会が10月でございます。その実行委員長を仰せつかっておりまして、知事、教育長、県教委とともに、こども真ん中の素晴らしい大会にしていきたいと思っています。

しかし、PTAも自ら手を挙げたことは1度もなく、常にお願いをされるという部分ではあるんですが、なぜやってるかっていうと、持続可能な地域を作っていくために、教育はとても重要で、SDGsのど真ん中だと思っているんです。ムトスの当事者意識、我々世代にいかにか火をつけて、持続可能な地域を作るためにやっていきたいと思っています。今日はとても貴重な機会だと思います。

(D 社会教育委員)

Dと申します。社会教育委員としては2年間お世話になりました。ムトスの学びについて、自分は分かってないところがありますが、i職務代理の一步を踏み出す力、確かにそうだなと感じました。そのために必要になるのが、一人ひとりの願い、思い、問いかだと思います。それを大事にしていきたいなということですが、社会教育員として教えていただいたのは、地域との関わりが大事だということ。東中の一年にいる生徒の話ですがエンジョイスクエアという下伊那郡内の小中学生を対象にした活動で、その生徒の思いから文房具好き集まろうってクラブを立ち上げました。それが形になって2回の活動を終わりました。生徒がやりたいという願い、思いを持てる環境づくりと、それを全力で応援することができたらいいなと思っています。

校内で生徒の願いや思いを、活動として実現できないか、作れないかと思って、今日の午前中、地区の東野、橋南、橋北の公民館を回って、館長さんたちとお話をしてきました。社会教育委員として、教えていただいたことをなんとか学校につなげたいと思っています。

(E 社会教育委員)

Eと申します。美術博物館の評議員を経て、現在は高森町の歴史民俗資料館に勤務しております。黒田人形にも関わっております。我々60歳代が次の世代に伝統文化をどう伝えていくべきかということを考え

つつ、高森でもエンジョイスクエアの1つのグループの縄文クラブのこどもたちを受け入れ、生命力に溢れた子たちが来てくれることに喜びを感じながら一緒に活動しております。

(F 社会教育委員)

Fです。この中では、1番一般市民、普通の主婦です。計画を立てるとか、学校でこういうことがあったとか、こういう教育の流れだというようなことは、本当によく分かりません。今は主任児童委員と図書分館に勤めています。近所のおばちゃんだよ、顔が見える人だよという感じで活動しています。前回の社会教育委員会議で発言ができなかったのは、私の方に届いてくる声は、こういう活動をしていいね、いい活動が出た、いい成果が出た、というものよりも、あの子たちは一部だよ、あれに参加できないうちの子はどうしたらいい、もうちょっと活動に出してあげたいんだけどもちっと戸惑うよね、という声の方が主任指導員の方には届きます。その中で、こういう活動はこういう目的で誰でも参加できるんだということが、私たちも汲み取れていなかったものも多かったのもので、もっと噛み砕いて伝えるってことができるといいなと思っています。意見は多く出せませんが、勉強させていただきます。

(熊谷教育長)

ありがとうございます。自己紹介のみならず、ムトスの学びに関わるとも重要なキーワードがいくつも出てきたとお聞きして思いました。復唱はいたしません、これは大事だなとか、ここが課題じゃないのかというようなことも含めて、自由に発言いただけるとありがたいです。

(F 社会教育委員)

先ほど、分からないという声がたくさん届くということをお話しましたが、「ムトスの学び」、「ムトス」という言葉をよく耳にします。つい先日も、「飯田学園構想の話が市からPTAにあったけど、「ムトス」って何？」と問われました。ムトスって意外と聞くんだけど分からないっていう人がとても多く、ムトスぶらざが建った時も、なんでムトスって名前なの？と、とても聞こえてきたんです。この資料、とても分かりやすいなと思い、私も活用して伝えやすくなったなと感じました。

(熊谷教育長)

ありがとうございます。私もやっててですね、伝えるってということと、実際に伝わるってことは全くの乖離があってですね、難しいことだなと思います。分かりやすい言葉で伝えることはとても必要なことと改めて思っています。

(I 社会教育委員)

今の意見を聞いて、私は嬉しいなと思いました。ムトス推進委員を長くやっていますが、入った頃はムトスという言葉さえみんな知らなかった。で、飯田市はムトスっていうことをやってるのに、みんなムトス知らないけどどこでやってるのという状態でした。市ではムトスまちづくり推進課という組織名にしたり、ロゴを作ったりして、ムトスという言葉が市民の中で広がってきたというのを聞きして、それは一歩前進だなと思いました。これからはムトスとは何かということ飯田市の中でみんなで広めていってもらって、自分で好きなことから一生懸命やったり、地域づくりに積極的に参加してみたり、自分で楽しいことがムトスであるということを今度は理解してもらうための第1歩が出た気がして嬉しいと思いました。

(熊谷教育長)

ムトスのロゴは「ムトスの学び」の絵に応用して使っています。一生懸命やられている方が委員になっていらっしゃるんですが、そうでない方も当然たくさんいらっしゃると思います。それは知らないからという部分もあるし、そういう機会がないからという部分もあるかとは思っています。

(A社会教育委員)

社会教育にはじめ携わった時に、長谷部三弘さんが飯田市公民館にいまして、私はその下にいました。

その時に玉井先生とかのアドバイスを受けて、「何々せんとする」っていうことで「ムトス」という言葉ができてきたのを覚えております。

私は、教育長は知っておりますが、その他の教育委員さんたちに是非お会いしたいなと思っていたんです。それは、今年の県の社会教育研究大会の時に、テーブルで県内の他の人たちと一緒にしてお話すると、社会教育委員と教育委員さんと協力して、一緒に作り上げていくとのことでした。私は教育委員さんの顔も知らないし、10年やって話し合いの場を1度もなかったな思い、教育委員さんがどういう思いでやってらっしゃるのか聞いてみたいということでこういう場になった気がします。

今後、社会教育委員と教育委員と一緒に作り上げていくことが実現できれば、私は嬉しいと思っています。

それから、私の住んでいる地域はボランティアの人たちが多く、先日も小学校で最後のボランティアをやった後に前に並んだんですが、交通安全で毎日立っている〇〇ですとか、隣には誰々くんがいますとか、名前を紹介するなど、学校も噛み砕いた紹介の仕方をして、地域の方を大事にすると、こどもたちも地域の中で育っていくと思います。

(熊谷教育長)

ありがとうございます。ボランティアの方を紹介するときに、名前だけでなくでしっかりと紹介していただくだけでも、また頑張ってくださいんじゃないかなということを、今お聞きしてて思いました。

(A社会教育委員)

私は三穂に住んでいますが、交通安全で立ってくださる方は、雨の日でも毎日立ってくださいます。私はいつもありがとうございますと通る時に心の中で言ったり、言葉に出したりするんですけど、よくやってくれる地域だと思います。三穂に住んで50年になりますが、地域愛に燃えております。

(熊谷教育長)

ありがとうございます。先ほどI委員が、「ムトスの学び」をこちら側で全部やるのではなくて、地域の人と一緒にやってもらうということをおっしゃってましたが、その辺のところをお話いただけますか。

(I社会教育委員)

私は科学実験やってるんですけども、これ楽しいなって思ったことが1番最初の気づきだったんです。いろんな出前講座を頼まれて地域に行った時に、役員の方々がみんな壁際に張り付いているだけだったんです。で、大人が1時間なりの貴重な時間を割いてきているのにもったいないなと思いました。私たち

の実験は大人がやっても楽しいので、ぜひこれを大人に参加してもらおうかなと考えました。そうすると、みんな目を輝かせて、自分のこどもとか、誰かに見せたくなるんですね。翌年からは役員には30分前に来てもらい覚えてもらい、だんだんにその人たちが主体でやる気持ちを持ってもらう。今、松尾の文化祭はそんな形で育成会の方々がもやメインでやるようになってます。そうすると、すごくその地域も活発になるし、大事だと思う。私たちが行ってやっちゃうと、そこには何ももの残らない。でも自分たちでできる地域は、私たちが出前講座に行かなくても、自分たちでやっている。

そういうふうに地域に活動が残っていく。地域の人たちが活動していくのが大事だと思います。

もう1つ、今小学校で科学実験教室をやっているんですけど、それは学校が授業時間の中に地域の方々が入ってやってくんですが、私は絶対にこうやりましょうという言い方はしないんです。「学校の先生、こういういいことあるんだけどやりませんか」、「地域の人たち、こういうのいいのあるんだけどやりませんか」と言うんですが、みんないいねと言うんですが、本当に一緒にやるのには何年もかかる。お金がかかることが1番のネック。コミュニティースクールで地域に遠慮なく相談すればいいのに、お互い顔を合わせ、牽制している気がします。こどものために意見を出し合い、話し合うことが大切だと思います。

(D 社会教育委員)

個人的にはそうだと思うところもありますが、学校としての難しさもある。校長として動きやすい立場にいるので、こどもたちの姿をみながら、先生方に伝えていけたらいいなと思います。

(F 社会教育委員)

学校と地域ということに関わって、丸山小学校と西中学校で、明るいかざこしのこどもらを作る会というのがあって、年に2回くらい集まり、話し合いをしてこれが課題だというけど、まるっきり変わらないまま、次の年も次の年も続いて、結局意見交換にもならず。コロナ禍では、モニター越しに喋って、分科会ってなるんだけど、分科会で喋ったけど、じゃあそれをどう生かしていこうかっていう行動にまで至ってなかった。それを今年は、ただ集まるだけじゃ意味がないということを地域から発信して、地域主体で組み立て方を変えていくという話になりました。学校と地域が、今後ますます連携していけばいいなと思っています。

(C 社会教育委員)

今日の会議も、ムトスを認識しながら未来へというお話が冒頭にあった。こどもたちを育むには協働が重要で、地域の皆さんとともにやっていくというのが今方向性だと思います。そこには、持続可能な地域の担い手の育成という大きな柱がありとてもいいと思うんですが、現実には、じゃあPTA終わったら、それぞれの地域の育成会だったりとか、ひまわりこども委員会だったりとかに、だんだんと繋がっていくはずです。だけど、伊賀良地区では、ひまわりこども委員会なくなったとか、組合を抜けるとか、そうなくなると、地域とのつながりがとてもなくなってきて、地域のプレイヤーをどうしていくかというのが、大きな課題、理想と現実のギャップがあると感じています。

だから、高校生あたりも地域のつながりの強いであれば、企業とのつながりを強化していくという方法もあるし、まちづくりと教育委員会など、いろいろな分野とディスカッションして、総合的に考えていかないと、まずいのかなと思ったりしてる。保護者も変わっていかなくちゃいけないと思う。今、教員が辞める理由は、保護者からの苦情が多いということも聞いてますから、必要な部分を訴えていかなくちゃいけない

と思う。

持続可能にな地域にするために様々な人たちが関わる仕組が少し課題かなと感じ、考えていけたらと強く思っております。

(H 社会教育委員)

繋がりの話が出てきましたけれども、自分たちの世代が一生懸命地域の歴史なり文化なり自然なりをまとめた取組を行って、いいつながりをつくることができました。その中で作った教材を使って伊賀良の小学生が学んでいてくれることがうれしく、こどもたちの感想もうれしかった。うちのお父さんやお母さんにね、夕飯の時に話してやりたいとか、心が繋がるだけじゃなくて、絆もできて、愛ある教育ができると思います。命の大切さを未来へ伝えていくことは大きな課題だと思います。必ず誰かと繋がってる、そういう社会でありたいと思うんです。愛ある教育を皆さんで頑張っていきたいと思いました。

(i 職務代理)

今まで皆さんのご意見をお聞きした中で、その地域のプレイヤーをどう育てていくかというようなことも含めて、様々な課題に应运えていくというか、超えていくための1つの方策として、例えば来年度から飯田市では、学園構想がスタートします。その中の1つに「みらい創造科」という飯田市としての特設の教科を設けて、ふるさと学習もこのみらい創造科の中に含めながら、地域の皆さんのお力もお借りし、こどもたちが地域を学んでいくやり取りの中で、私の好きを探したり、自分の問いを紐解いたりしながら、生きる力を育てていきたいということを構想して、みらい創造科が設定されているわけです。それだけでこの大きな課題の解決にすぐに至るとは思っていませんが、このみらい創造科のような学びがスタートしていくことが、1つの解決策になっていくのではないかと考えます。今年、社会教育委員の皆さんとはたくさんご一緒させていただきましたが、キャリアフォーラムでのこどもたちの姿とか、飯田市公民館大会の時の高校生の発言する姿とかに繋がってほしいなと思います。

それから、あのような姿をみんなに求めるわけではないのですけれど、あそこまで行かないにしても、ほっといたら気づかなかったような自分の地域の良さとか、自分の地域の課題とかに、少しでも関心を寄せてくれるこどもたちが育っていくことが、すぐに地域の次の担い手の育成とまではいかないかもしれないけれど、ささやかな1歩になってくのではないかと思います。

まとめは座長さんがしてくださるようですが、それこそ来年以降のこどもたちの学びを私たちも見届けながら、またこんな機会で見聞交換できると嬉しいなと思い今日聞かせてもらいました。

(熊谷教育長)

大事なところに入ってきていますが、この地域のプレイヤーをどう育てていくか、これからどうしていけばよいかということで、ご発言が続いておりますが、まだご発言いただける方はお願いします。

(B 社会教育委員)

日曜日にはムトスの学習会があります。私はコーディネートの専門委員にもなってるもんですから、そっちの方も気になっています。また、愛宕神社のライトアップをやってるもんですから、いつ仕込みをしようかなと考えています。開花時期を遠山の河津桜が咲いたら、その2週間後には飯田が咲くぞというようなことを予測しながら、毎日最高気温をチェックしているんですが、あまり難しいことは考えません。自分が

楽しいから、気が付いたからやるっていうのが原点だと思います。

美術博物館の評議員やったり、ガイドをやったり、モーニングウォークなんかでも話をするんですけど、私は飯田の町の中を見てくださいということをよく言います。りんご並木も綺麗に整ってるんですが、飯田の街の通りが常に綺麗だって県外の人に褒められるんです。別に行政が掃除をしてるわけじゃないです。住民1人1人が気がついて掃除をしていく。向かい合わせで1つの町内ができてるっていうのは城下町の決まりなんです。そういう気づきで自分が行動を取れている。それが習慣化してるっていうことが、「ムトスの学び」と同じだと思うんですね。しかも、多様な人たちがそこに住んで。人と企業も行政も、みんなと一緒にいる同じフィールドを思いやりながら、自分が気づいて、それを習慣化してやる。SDGsではないですけど、ずっとそれを連綿とやっていく。その中で飯田が燃えた時にはりんご並木が生まれたのだろうし、いろいろに波及していくのだと思う。その部分で珍しいエポックメイキングな何かトピックを作るわけではなく、淡々と、安定してやっていけるということが1番大事なと最近思うようになりました。

何か新しい取り組みをして、その成果を求めるとか、人のためにとかという大上段に振りかざした感じではなくて、淡々とやっていく中でしっかりと根付いていくものがあるんじゃないか。街中で大学の先生を案内しながら、どうやって綺麗にしてるんですか、どういうプロジェクトを組んでるんですかと聞かれますが、「そういうものは一切ありません。街の人が綺麗にしています。」と答えています。

こどもたちが、学校へ行くときに行ってらっしゃいと声がけする。誰かが指導するわけでもなんでもなく、飯田の街は横断歩道でこどもたちが来ればみんな停まる。停まった後に振り返って頭を下げてくれる。こういう習慣なんですね。指導じゃないんですね。仕組でもないし、なんとなくそういうのが素敵に思えるという、決まりの良さみたいなものが伝わっていくといいのかな、盛り込まれてくると素敵だなと感じました。

先ほど i 職務代理がご発言されたみらい創造科は、とても期待していて素晴らしいなと思っております。先ほど H 社会教育委員さんが言ったふるさと学習をちょっと思い出したんですけど、ちょうど12年前、必ずPTAも参加する学年授業とかあるじゃないですか。社会教育に必然的に関わる機会。そうすると、学年の役員も考えなくても、1つの仕組みを作ってきたという部分はあったりするんですよね。仕組で入れるとまたいいかなとも感じました。

(熊谷教育長)

時間で終わらせることが目的ではなくて、ここに来てよかったなって思っただけなのが1番大事です。続いて G さんお願いします。

(G 社会教育委員)

川路は水害で大変な被害があったところです。私のこどもの頃は、線路の脇には何も使われてない、畑も田んぼにならないところがただ広がっているだけでした。それをどなたかが考えて、今があるんだと思うんです。そのお話を長姫の高校生が今年、地域人教育の時に、先人から聞いたもの受け売りで話をしたんですけど、土地管理組合、かわらんべの館長さんと高校生のおかげでみんなが一堂に会してお話をする機会に恵まれました。12月24日には学校の発表会があったんですけど、その会場だけの発表ではもったいないということで、川路に来ていただいて発表会をしました。同じ川路の関係者が繋がってなかったなということをととても思いました。こういうことの積み重ねでつながっていくのかなと思います。

(ii 教育委員)

今日、社会教育委員の皆さんとの懇談会という貴重な機会で、皆さんのそれぞれの思いというか、色々聞かせていただきました。

1つ思ったのが、先日の公民館大会に行った時に、分科会で1つ感じたことがあります。キャリア教育推進フォーラムですとか公民館大会ですとか、前に出て立派な発言あるいは発表をしてくださる人たちもちろんすごいなというも感心してみるんですけども、公民館大会のその分科会の方に行きますと、地域で仕方なく無理やり、いやいや出されてやりましたっていう方が何人もいらっしゃいました。世代的には、自分と同じぐらいのお子さんが中学生だったり高校生だったり忙しい方ですし、なかなか地域にという意識がそこまで芽生えない世代かもしれません。

たくさん関わってくださってる方もいらっしゃるんですが、その方が、「いやいややったけれども、やってよかった。その思いをみんなに伝えていきたい。」ということをおっしゃってたのが非常に印象的でした。ムトスの学びでなんでもこうやってみよう、挑戦しようっていうお子さんばかりではないと思うんです。お子さんもそうですし、大人も何でもやってみようっていう方ばかりではないですが、何かきっかけがあって、無理やりでもなんでも、ちょっと半歩、1歩まで行かなくても半歩出たら実は面白かった、楽しかったってことが、皆さんの継続に繋がると思う。

ここにいらっしゃる皆さん、いろんな活動してくださって、なぜ継続できるかという、自分自身の面白さというところがあるかなと思うのですが、公民館大会での分科会のお話は、非常に印象に残りました。

地域のプレイヤーを作っていく。この人やれそうだからとか、しっかりしてるからっていう理由かわかんないですけど、いろんな方をプレイヤーにしたいと思ってなかなか手が上がらない状況だとは思いますが、何かきっかけがあって入ってみたら楽しかったっていうことはあるのかなと考えています。

それともう1つは、小中連携・一貫教育推進委員会で、小中学校の先生たちが一生懸命毎年研究されたり、各地区でやってらっしゃることを発表していただく会議を聞かせていただいたんですけども、どの先生方、校長先生方、教頭先生方も、地域の力なくしてはやっていけないっていうことを必ずおっしゃいます。公民館の力、地域の力っていうのを先生たちは本当に求めているなっていうことをひしひしと感じてます。それがこのみらい創造科でどんどん繋がって広がっていくといいなというふうに感じています。

(iii教育委員)

今日、社会教育委員の皆様とお話をして、2つ思ったことを話させていただきたいと思います。

1つ目は、今村幸子委員がおっしゃった、自然の良さを忘れないことを大事にしていきたいということで、私は飯田生まれ飯田育ちで、飯田の自然というものは当たり前だと思ってずっと生きてきたのですが、都会に憧れを持って、都会に行きたいと思って、都会に住んでみて初めて飯田を俯瞰してみた時にこそ分かるものってあると思うんです。ムトスの学びで地域の良さを学ぶ機会を得ることによって、自分が1度飯田から離れて外に出て分かる、ちょっと時間経過した後に気づくということを願って、何かそういう機会を作っていけたらいいと思いました。飯田は自然豊か、それが宝だということを、今になってやっと私も思っているところであります。

2つ目は、こどもが通っている小学校で、卒業間際の恒例行事としてロケット打ち上げを行っています。その時に6年間で楽しかったことや、中学に行ったら何を頑張りたいとか、何をしたいかななどを、大きい声で宣言してロケットを飛ばすことをやらせていただいたことが、卒業時の思い出として、保護者もこどもたちも強く印象に残っております。改めてありがたいということ、そういう体験を組み込んでいただいていることに、改めて感謝の気持ちが湧いてきました。

(熊谷教育長)

無理に1分とか、厳しいことを申し上げたにもかかわらず、体験にまつわるお話をたくさんいただきましたので、中身の濃いものになりました。まとめを座長さん、よろしくお願いします。

4 まとめ

(座長)

私、昭和55年にふるさと飯田に3校目の異動で帰ってきました。教員生活で飯田市内の学校勤務は1校だけなんです。2回とも高陵中学校です。55年の時はまだ上郷町にある高陵中学校でしたが飯田市との組合立でしたので、飯田市の情報は当然入ってきました。

その時に、ムトスという言葉が初めて出てきたんです。これはね、大変びっくりもし、何これと思いました。それは、私にとってはとても意義のあることだったんですね。今45年経って、地域の皆さんがムトスって何と言い出しているわけで、これはとってもよいことなんですよ。教育委員会が「ムトスの学び」を発信していることの意義は、そこにもあると、私は改めて思い出しました。

実は57年の3月なんですよ。10万都市構想の時に出来たと思います。私、国語科の教師でございましたので、こどもたちに「ムトス」とは、いわゆる意志の助動詞+格助詞の「と」、「する」というサ変の動詞と分析してですね、ムトスの「ム」は漢字にもあるんですよ。古字ですが、意味は「わたし」で1番重要なことは「ム(わたし)」なんだと。そして、ダジャレでさげなく「トス」を上げることが大事だと。そう話したことを今お話を聞いていて思い出しました。

「求める心に素敵な出会いが」と、初任校以来ずっと黒板の右端に書き続けてきて、3校目で「ムトス」が出てきた。重なったんですよ。我が意を得たりっていう感じでした。でも10年も経たないうちに昭和が終わるんです。ガラッと変わりました。最初が変わったのは教職員の働き方、ですよ。

戦後、国際労働機関から日本も世界と同じように週40時間にと言い続けられたけれど、高度成長の中で、日本は批准することなく、様々な形態を考えながら週44時間でやってきた。

私はびっくりしましたね。平成4年9月12日(土)が休みとなった。年度途中からですよ。これで学校が週5日制になっていくわけで、1番大きな変化が生活です。「こどもたちの生活が学校にありますか？」これが私の問いになりました。教師としての後半でした。「家庭にこどもの生活ありますか？」、「地域にこどもの生活ありますか？」、「学校にこどもの生活ありますか？」という自分への問いです。「教科課程」だった戦前の教育が、生活を加える、つまり特別教育活動ですよ、そういうものが入ることで「教育課程」という名前に変わりました。教育課程は、学校が教科の学びだけじゃない。様々な行事に参加したり、様々な活動に参加したりして、この(為すことによって学ぶ)ことが、学校生活が、本当に大事だということです。

そう考えますと、今私が課題に思っていることは、部活動をみんなやっているからと、クラブ活動をなくし、今度は学校から部活動もなくなっていくということです。働き方改革で大事なことです。反対する者なんていない。しかしその後の中学校ってどうなるの。1年生から3年生まで一緒になって、先生の数だけクラブ活動があったんですよ。手芸クラブもあれば、スポーツもあれば、将棋もあれば、料理もあれば。様々なこどものニーズと先生方の関心で、先生方がクラブを担当して毎週クラブ活動があった。それがなくなったのが平成になってからですから。そして、当時は全員が部活動に入っていることになっていた。そうでないとクラブを履修していないことになるから。今度、学校での活動がまた1つ消えていくのかと思うと、そこに1番関心を持っているところです。

私の勝手な思いも述べさせてもらいましたが、子どもたちが学校で生活を送っているか、自分たちが問題だと思うことを自分たちで話し合い、自分たちでルールを決めてということが行われているかということに関心を持っていきたいと思いますし、期待するところです。

最後に一言。主体的、対話的で深い学びと言いますが、子どもたちの様子や私自身の経験から、全くやらされることから始まったことでも、主体的になっていくことはいっぱいあります。自分から主体的に始めたことでも、いつの間にかやらされているということになってしまうこともいっぱいあります。単なる形だけにしないようにしたい。やらせることも大事だと、やがてそれが主体的になれば。そう心から思います。

5 閉 会

(秦野教育次長)

ありがとうございました。これからもまたこういう意見交換の場を設けられればいいなと思いました。

懇談の中でお話が出ましたが、私がムトスぶらざの命名時の担当者です。「ムトスって何？」と、みんなに言ってもらうためにつけました。意図通りだと思いました。ぜひムトス、ムトスって言ってください。

本日はどうもありがとうございました。